ピリス待望の活動再開!!

2018年衝撃の引退宣言をしたマリア・ジョアン・ピリスが活動を再開した。引退後にライフワークとしていたポルトガル、ベルガイシュ芸術センターや世界各地でのワークショップはコロナの影響で停止した状態になったことも理由の一つだったといわれているが、活動再開後は、病気の故ラドゥ・ルプーの代演でバレンボイム指揮ベルリン・フィルの定期でのベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番やマルタ・アルゲリッチとのモーツァルトの2台ピアノの協奏曲(ハーディング指揮)、ヨーロッパ各地でのリサイタル、コロナ禍ならではの映像作品の配信等元気な姿を見せていて、今後の活躍が期待される。

Maria João Pires

マリア・ジョアン・ピリス

現代を代表するピアニスト、マリア・ジョアン・ピリスは、芸術への真摯な姿勢、語りかけるような表現力、そして生命力にあふれた演奏で聴衆の心をつかんで放さない。

1944年リスボン生まれ、4歳で初めてステージに立つ。9歳で、ポルトガル政府により 青少年音楽家に対しての最高賞を授与される。1953年よりリスボン大学で作曲・音楽史 及び音楽理論を学ぶ。西ドイツに留学時にはミュンヘン音楽アカデミーでローズル・シュ

ミット、ハノーファーでカール・エンゲルの各氏に師事。

数々の華々しい演奏活動はファンならずともよく知られるところだが、1970年以降、彼女は芸術や音楽が人間社会に与える影響を研究し、その成果を教育的プログラムとして実践していくことに心血を注いできた。その活動の一環として、1999年にはポルトガルにベルガイシュ芸術研究センターを設立した。ここではプロアマ問わず定期的にワークショップが開かれ、コンサートやレコーディングも行われている。2012年にはまた彼女は才能のある若いピアニストたちと協力して2つのプロジェクトを立ち上げた。ひとつは「パルティトゥーラ・プロジェクト」。このプロジェクトは、さまざまな世代のアーティストをつなぎ、自己の利益だけを求めるのではなく他者との共存、他者との分かち合いを目指すもので、競争を重視しがちな現代に、新たな潮流を作ろうとするものである。もうひとつは、「イクイノックス」というプロジェクトで、6歳から14歳の恵まれない境遇にある子供たちを、合唱への参加を通して支援する社会プログラムである。

録音もソロ、室内楽、コンチェルトなどと幅広い。最近の録音としてオニックス・レーベルへの移籍第一弾、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番、第4番(ダニエル・ハーディング指揮スウェーデン放送響)がある。2014年夏には、ピリスの70歳の誕生日を記念して、エラートから1970年代と1980年代の録音が再リリースされたほか、ドイツ・グラモフォンからもソロ・レコーディングをすべて収めたCD38枚組のボックス・セットがリリースされた。

- ●やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合もございますが、曲目変更等のための払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承願います。
- ●未就学児童のご入場はご遠慮いただいております。
- ●車椅子でご来場されるお客様はご購入前にチケットスペースまで必ずお問い合わせください。

【感染症対策についてご協力のお願い】

ご来場の皆様に安心してお聴きいただくため、当公演では新型コロナウィルス感染症に対しての感染予防、拡散防止に最新の注意を払い、 様々な対応策を講じた上で公演を実施いたします。

- ●会場内では正しいマスクの常時着用、入場時の検温、手洗い・消毒の施行にご協力ください。また、開場中・休憩中・終演後の密集してのご歓談をお控えいただくようお願いいたします。
- ●発熱や咳などの症状がある方、新型コロナウィルス感染症陽性者と濃厚接触者はご入場いただけません。
- ●クロークの営業は停止しております。お荷物のお預かりはできません。
- ●当日券をご購入のお客様にはその場でお名前とご連絡先をご記入いただきます。※2022年8月現在のガイドラインに基づく対策です。 詳細並びに最新情報は公式ホームページでご確認ください。